

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 自然環境課長 齋藤 晃大 電話番号 0852-22-5346

事務事業の名称	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	
目的	(1) 対象	県民及び県を訪れる人々
	(2) 意図	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。
事業概要	三瓶山及びその周辺の豊かな自然の中に設置した「三瓶自然館サヒメル」等を活用し、自然と親しむ場を確保するとともに、島根県の自然環境や自然史に関する展示や天体観察の場を創出し、質の高い自然学習の機会を広く県民に提供することを目的として、下記事業実施。 ・三瓶自然館サヒメル等の指定管理 ・三瓶自然館サヒメル等の大規模修繕 ・小豆原埋没林公園保存検討	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	サヒメル等の利用者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		155,000	155,000	155,000	155,000	
式・定義	サヒメル等の利用者数		実績値	160,798	148,299	187,626	146,730		人
			達成率		95.70	121.00	94.70		%
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	419,043	366,787
うち一般財源(千円)	400,720	356,184

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 三瓶自然館及びその付属施設については、指定管理者が下記事業などを実施
 - 企画展等の開催（春、夏、冬の3回）、自然観察会 ②各種イベント開催などを通じた自然についての普及啓発 ③島根県の自然系博物館としての調査研究 ④各種広報活動（PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など）
- 大規模修繕を計画的に実施
 - 水道施設更新工事 ②設備部品交換業務
- 小豆原埋没林公園保存検討
 - 三瓶小豆原埋没林保存・防災計画策定

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 三瓶自然館及びその付属施設については、企画展やイベントの積極的開催などにより、集客できた。
- 大規模修繕の計画的実施により、快適な施設環境を確保した。
- 小豆原埋没林の保存について、問題点や工法検討を進めた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 三瓶自然館の展示関係について、重要な学術的価値や、最新の情報が十分に伝えられない。
- 小豆原埋没林について、来館者にその価値が十分に伝えられない。

②困っている状況が発生している「原因」

- 三瓶自然館の展示関係について、施設・設備の整備後年月を経て劣化してきており、内容も大幅な更新がなく今日的な視点からは古くなってきている。
- 三瓶小豆原埋没林公園には、展示解説的な施設・設備がほとんど無い。

③原因を解消するための「課題」

- 三瓶自然館の展示関係については、学術的な内容や、今日的なテーマ設定、展示解説の手法など未整理。
- 小豆原埋没林について、ガイダンスの前提となる埋没木保存の工事内容が未確定

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 三瓶自然館の展示関係及び埋没林公園の展示解説については、学術的な専門家でもある指定管理者の意向を確認し、一体的に検討する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）